

米の需給状況について

令和 7 年 10 月 10 日

福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

本県を含め、全国的に主食用米の作付けは増加しました。
今後とも、主食用米の需給バランスを保ちながら、麦、大豆等の畑作物や収益性の高い園芸作物への作付転換など、需要に応じた生産を引き続き実践することが必要です。

1 国の需給見通し

国は、令和 7 年 9 月 19 日に開催した「食料・農業・農村政策審議会食糧部会」において、新たな「米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針」を示し、令和 7 年 7 月から令和 8 年 6 月までの 1 年間の需給見通しが示されました。

これまでとの主な変更点は以下のとおりです。

- (1) 需要量にインバウンドも含めた近年の需要実績を考慮した。
- (2) 生産量と需要量に幅を持たせた。
- (3) これまでの玄米ベースの数値に加え、精米ベースでの数値を示した。

なお、備蓄米の買入れ、買戻しについては、需給環境が大きく変化し、環境が整った場合に行うこととし、今回示された指針では取組内容が示されませんでした。

表 令和 7/8 年の主食用米等の需給見通し

		精米ベース (万トン (精米))	玄米ベース (万トン (玄米))
令和 7 年 6 月末民間在庫量	A	140	157
令和 7 年産主食用米等生産量	B	645～668	728～745
令和 7/8 年政府備蓄米供給量	C	21	24
令和 7/8 主食用米等供給量計 D=A+B+C		807～829	908～926
令和 7/8 主食用米等需要量	E	624～631	697～711
令和 8 年 6 月末民間在庫量 F=D-E		176～205	198～229

2 水田における作付状況

国は、令和 7 年 10 月 10 日に 9 月 15 日時点の令和 7 年産の水田における作付状況を公表しました。これによると全国の主食用米の作付面積は、前年実績を 10.8 万 ha 上回る 136.7 万 ha となりました。

本県においては、前年より 10.5 千 ha 増加の 67.0 千 ha となり、生産の目安 (56.5 千 ha) を大きく上回りました。

飼料用米や備蓄米が大きく減少し、主食用米の増加につながりました。

表 主食用米の作付状況 (令和 7 年 9 月 15 日時点) 単位：千 ha

都道府県 名	6 年産 実績①	7 年産 作付状況 ②		
			前年差 (②-①)	前年比% (②/①)
全国	1,259.0	1,367.0	108.0	109
福島	56.5	67.0	10.5	119

表 戦略作物等の動向（令和 7 年 9 月 15 日時点）単位：千 ha

		戦略作物							備蓄米
		加工用米	新規需要米				麦	大豆	
			新市場 開拓用米	米粉 用米	飼料 用米	WCS用稲			
全国	本年	44.2	9.0	3.5	46.0	48.9	94.8	74.9	0.0
	前年	50.2	11.2	6.3	98.7	56.5	103.1	84.4	30.0
	前年差	▲ 6.0	▲ 2.2	▲ 2.8	▲ 52.7	▲ 7.6	▲ 8.3	▲ 9.5	▲ 30.0
福島	本年	1.0	0.1	0.0	1.4	0.9	0.4	0.8	0.0
	前年	0.4	0.2	0.0	7.0	1.1	0.4	0.9	5.6
	前年差	0.6	▲ 0.1	0.0	▲ 5.6	▲ 0.2	0.0	▲ 0.1	▲ 5.6

3 令和 7 年産水稻の予想収穫量

国は、令和 7 年 10 月 10 日に令和 7 年産主食用米の予想収穫量（9 月 25 日現在）を公表しました。全国における主食用米の収穫量は前年産より 68 万 5 千トン多い、747 万 7 千トン（ふるい目幅 1.70mm ベース）と見込まれています。

また、本県の予想収穫量は前年産より 6 万 3100 トン多い、38 万 4600 トン（ふるい目幅 1.70mm ベース）と見込まれています。

なお、国が 9 月 19 日に公表した需給見通しに、今回の全国の予想収穫量を当てはめると、令和 8 年 6 月末民間在庫量は 218～232 万トンと推計されます。

表 令和 7/8 年の主食用米等の需給見通し

		玄米ベース (万トン（玄米）)
令和 7 年 6 月末民間在庫量	A	157
令和 7 年産主食用米等生産量	B	<u>748</u>
令和 7/8 年政府備蓄米供給量	C	24
令和 7/8 主食用米等供給量計 D=A+B+C		929
令和 7/8 主食用米等需要量	E	697～711
令和 8 年 6 月末民間在庫量 F=D-E		218～232